

第 11 回年次会合
拡大委員会
2004 年 10 月 19 - 22 日
大韓民国、釜山

議題

- 1 . 開会
 - 1.1 第 11 回年次会合における拡大委員会会合の議長及び副議長の選定
 - 1.2 議題の採択
 - 1.3 オープニング・ステートメント
 - 1.3.1 加盟国
 - 1.3.2 協力的非加盟国
 - 1.3.3 その他の国及び団体
- 2 . 事務局からの報告

事務局長は、前年に行われた活動について報告書を作成する。
- 3 . 財政運営委員会からの報告

財政運営委員会は、2004 年修正予算案及び 2005 年予算案と 2006 年提示予算案を検討するために召集・設置される。全予算案の検討後、財政運営委員会は、委員会に対しその報告書の承認を求める。この手続きは 2004 年修正予算案及び 2005 年予算案を決定するために行われる。
- 4 . 非加盟国との関係
 - 4.1 インドネシア
 - 4.2 南アフリカ
 - 4.3 フィリピン
 - 4.4 その他の国

この項目では、特に正式に協力的非加盟国になるための申請に前向きな国々に関し協議する。
- 5 . ミナミマグロ漁業のレビュー

委員会の合意に基づき、各加盟国の前年漁期におけるミナミマグロ漁業の報告を求める。
- 6 . 拡大科学委員会からの報告

拡大科学委員会議長は、9 月に開催された拡大科学委員会報告書を提出する。報告書は 2004 年 9 月に開催された資源評価グループ会合によって行われた資源評価に基づいたミナミマグロ資源の現状に対しての管理勧告を含む。
- 7 . 総漁獲可能量 (TAC) 及びその配分

条約上、委員会は TAC 及び加盟国と協力的非加盟国に対する国別割当量を設定することを規定している。科学委員会は拡大委員会に対しこの議事に関し資源の現状に関する助言を行う。

8. 管理手続き
拡大科学委員会議長は、この問題を委員会に提示する。提示内容は 2004 年 4 月に行われた特別会合と拡大科学委員会の開発レビューの結果を反映するものとなる。
9. 分担金計算式
拡大委員会は開発途上国のために加盟の財政負担を軽減する分担金計算式の修正を検討する。
10. 漁獲監視システム
拡大委員会は第 10 回年次会合において事務局に対し漁獲監視システムの制定に関する議論ペーパーの作成を依頼した。閉会期間中に議論ペーパーは回章された。
11. 新メンバーの承認について
2004 年 4 月の特別会合で拡大委員会は事務局に対し漁獲枠の設定を含む新規 SBT 漁業への参加承認に関する議論ペーパーの作成を指示した。ニュージーランドもメンバー国間における TAC 増加に関する CCSBT 1 における合意についての議論ペーパーを準備するように依頼された。
12. インドネシア漁獲の監視
拡大委員会は 2005 年中旬頃、漁獲監視を終了するインド洋まぐろ類委員会 (IOTC) からの報告を踏まえ今後のインドネシアの漁獲監視を考慮する。
13. クォータトレーディング
加盟国間で行われるクォータトレーディングは漁業管理の問題としてとりあげられた。閉会期間中の考察のため、事務局は議論ペーパーを作成した。
14. 閉会期間中決議記録
現在、CCSBT は閉会期間ほとんどの場合電子メールを通じ多くの決定を行っている。事務局はこれらの決定に関し拡大委員会による判断のためにその記録の方法を提案する。
15. 遊漁
オーストラリアは拡大委員会に対し遊漁管理の開発に関し報告する。
16. 生態学的関連種作業部会 (ERSWG)
拡大委員会は 2004 年 2 月にニュージーランドで行われた生態学的関連種作業部会の報告書の承認を検討する。
17. 行動計画
事務局が簡略な状況報告書を提出する。

18. 調査死亡量枠（RMA）
この項目においてメンバーは2005年の各国の研究活動に必要なRMAの承認を要求する。
19. その他の組織との活動
事務局長は、他機関との前年の交流活動状況、及び2005年の活動案の報告書を提出する。他の地域漁業管理機関との将来における協力について検討される。
20. 2005年の作業計画
事務局は、他のCCSBTの会合の結果を踏まえた作業計画、及び2005年の会議開催における予定表並びに開催予定地を提案する。
21. 委員会文書の機密性
委員会は、第11回年次会合に関する文書の公表について正式に合意しなければならない。
22. その他の事項
23. 閉会
 - 23.1 第4回拡大委員会の議長及び副議長の選定
 - 23.2 会合報告書の採択
 - 23.3 閉会